

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「一人ひとりの花を咲かせよう！ そしてともに輝こう！」をキャッチフレーズに、 児童生徒一人ひとりが日々輝き、卒業後にいきいきと社会生活を送ることができるよう、 以下の学校づくりを行う。 1 知的障がい教育の理論と実践の積み重ねに裏付けられた専門性の高い教育を行う学校 2 保護者や地域の人たちとともに児童生徒の一つひとつの成長を喜び合う学校 3 教職員がいきいきと働く学校 4 地域の小中学校等が自立して支援教育を推進することをサポートする学校

2 中期的目標

1 知的障がい教育の専門性向上 ＜学校教育自己診断の保護者評価「学校に対する意識」R8まで80%以上を維持（R4:77%、R5:82%、R6:77%）＞ <u>キャッチフレーズ：「寝屋川支援プライド ～誇りをもって～」</u> (1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する（自閉スペクトラム症の特性に応じた指導支援を含む） ア 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う イ 自立活動を推進する ウ 効果的な指導方法を検討する エ シラバスをブラッシュアップする (2) 卒業後を見据えた進路指導を充実させる ア コース制での学習の充実を図る イ 卒業後の社会参加と自立を見据えた実習及び進路の充実を図る ウ 卒業後の社会参加と自立を見据えた効果的な進路指導を推進する (3) 時代にマッチした教育理論を構築する ア カリキュラム・マネジメントを充実させる イ 効果的な指導支援体制を研究・推進する ウ ICTを活用した取組みを推進する エ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する オ 人権感覚を育む カ いじめの未然防止に努める キ 防災・防犯に努める (4) 次世代教員を育成する ア 人権感覚を高める イ 他学部との取組みを知る機会を作る
--

(1) 保護者との連携を深める

ア

キャリア教育プログラムの活用を推進する

イ

保護者が悩みを相談できる機会を作る

ウ

通学バスの位置情報を提供する

(2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する

ア

学校間交流を推進する

イ

民間委託された給食室と連携を図る

(3) わかりやすい最新の情報発信・収集を行う

ア

デジタル化を推進する

(1) 同僚性の高い職場づくりを行う

ア

ワーク・ライフ・バランスを向上させる

イ

定時退庁できる雰囲気づくりを行う

(2) 教職員が働きやすい環境整備

ア

教材バンクの活用を推進する

イ

分掌長・主事等の業務を軽減する

ウ

物品・環境の管理・整理・清掃方法を見直す

エ

個人情報処理業務を削減する

オ

会議の円滑化・充実を図る

(3) 業務推進体制を整理する

ア

首席を各PTの要として学校経営の推進を図る

イ

校務分掌体制を整理する

(1) 地域との連携強化を図る

ア

校内外の支援コーディネーターの育成を図る

イ

高等学校への支援を進める

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和　6　年　12　月実施分〕	学校運営協議会からの意見
1　結果概要 ＜保護者アンケート＞ ・回答率は、昨年度（51.3％）より、11.8％増。 昨年度から、フォーム作成ツールを用いてアンケートを実施したところ、回答率がかなり下がったため、今年度は当初設定した回答期限を延長すると共に、リンクを掲載した紙媒体の案内を配付したことにより、回答率の向上につながったと考える ・各項目の肯定的評価は、昨年度より微減したものの、全体平均は昨年度（77.4％）より2％増 ＜教職員アンケート＞ ・回答率：　81.7％（令和5年度）→100％（令和6年度） 名簿を回覧して回答済みチェックを行ったことで、100％達成 ・ほとんどの項目で肯定的評価が増加。全体平均は昨年度（76％）より9.5％増加 2　結果詳細 ＜保護者アンケート＞ 【特に高評価な項目】 ①「授業参観や学校行事で学校の様子をを知ることができる」（90.7％） ②「教職員は日常の教育活動で子どもの人権を十分に尊重している」（87.6％） ③「学校の児童生徒指導の方針に共感できる」（86.2％） 【課題の見られる項目】 ④「学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」（52.4％） ⑤「学校は子どもの将来の進路や職業について適切な指導や助言を行っている」（68.4％） ＜教職員アンケート＞ 【特に高評価な項目】 ⑥「カウンセリングマインドを取り入れた生活指導」（91.7％） ⑦「進路選択に応じた指導」（92.3％） ⑧「人権尊重の姿勢に基づく指導」（88.8％） 【課題の見られる項目】 ⑨「教育活動全般の評価と次年度計画への反映」（69.2％） ⑩「保護者・地域への情報周知」（73.4％） 3　課題の改善及び相関を基にした考察 ④学校のいじめ対応についての理解 肯定的評価が52.4％と低く、「わからない」が43.6％と非常に高い割合を占める。教職員アンケートでは、いじめ対応への肯定的評価が76.9％と高く、対応体制が整っていると認識があるが、保護者との間に大きな認識のギャップが見られる。 いじめ事案が発生していない場合、保護者が学校の対応方針を把握しづらい可能性がある。本校ではいじめの未然防止を今年度の学校経営計画の重点目標に位置付け、「学校いじめ防止基本方針」の年度ごとの見直し、「いじめに関するアンケート」の毎学期実施など、学校組織として子どもたちが安心して学校に通えるよう、いじめへの対応を行っている。保護者の方に安心していただけるよう、今後も情報を発信していく。 ⑤進路や職業選択についての適切な指導 「子どもの将来の進路や職業について適切な指導や助言を行っている」の肯定的評価が68.4％と低めである。一方、教職員アンケートでは進路指導について肯定的評価　92.3％と高い結果を示しており、認識のギャップが見られる。 進路を具体的に考えていく高等部の保護者からの回答では肯定的評価が85.4％である。「わからない」の回答については、小学部21.3％、中学部が17.4％、高等部が8.3％となっており、特に小学部段階で、進路や職業選択についての指導へのイメージがもちにくいことがわかる。 今年度、高等部との職業に関する授業交流（職業の授業見学、実習体験、授業交流）を小中学部で実施。中学部では校内実習体験を実施。小学部段階からの進路指導を進めているところである。今後も本校での進路にかかわる取り組みについて、保護者の方に情報発信を行っていく。 ◎教育活動評価と次年度への反映 教職員が評価結果を十分に把握できていない可能性がある。学校経営計画の評価について、評価内容とその反映計画を、教職員にさらにわかりやすく共有する必要がある。教職員が計画の成果を実感できるよう、振り返りの機会を増やし、小さな成果も共有すること全体で達成感を共有できる仕組みを構築していく。 ⑩保護者・地域への情報周知 保護者の回答では、「学校は教育情報について、提供の努力をしている」項目で82.7％と高評価となっているが、教職員の評価では少し低い73.4％となっている。自由記述回答中に、「保護者の間でデジタルデバイスが感じられる時がある」という意見があった。本校では情報伝達についてデジタル化を進めているが、デジタル環境に関する不安や要望を聞き取り、必要に応じて対応策を講じていくことも求められる。 また、「保護者への情報伝達が遅いと感じる。」という意見が自由記述回答にあった。必要な情報について、タイムリーに伝えていけるよう、努めていきたい。	【第1回　7月4日】 ●50周年記念事業について ・学校ホームページにアクセスすると、記念ソングが流れるようになっている。50周年を盛り上げようとしていることが感慨深い。 ・子どもたちの取り組みはキャリア発達の視点で素敵だと感じる。 教職員も楽しんでいる様子が分かり、同僚性やチームで取り組んでいく等、次につながる。ダンスを基軸として系統性をもって教員が話をする機会も増え、良いものだと思う。 ●教科書採択について ・☆本というものがあるということを初めて知った。地域の学校でも使ってみたいと感じる。 ・系統性を重んじていくということで、5月に全校教科会が開かれた。12年間の一貫教育をいかにすすめていくかということを考えていけるのは、支援学校の強みでもある。 子どもの実態に応じて支援内容や教材教具を工夫されると思うが、教科書でさらに系統性がある授業づくりをすすめていってもらえたら。 ●学校経営計画 ・学校経営計画は教員が読むのがしんどいという印象だった。意見を集めてキャッチフレーズを募集するのは、面白いと感じている。 ・中学部の職場体験は今後社会情勢も変わっていて選択肢も広がる中、どうなりたいかなどを考える機会を持ってないのかなと思う。一方で、職場体験実習は行っているのか？また、卒業生や実際のさまざまな仕事の話を聞く機会を持ちたい。 ・園でも働き方改革の観点から会議の持ち方や諸書類の書き方等を見直ししているが、成果につながるまで引き続き取り組む必要があると考えている。園での取組の参加にもさせて頂いているので、学校経営計画を元に今後も進めていってほしい。 ・アンケートのペーパーレス化については、保護者からの回答を一定数求めなければその有効性が高まらないので回答率を高めることが課題となる。 ・働き方改革では、本校でも取り組んでいるが、教員のよりよいものを求めたい気持ちが先行し道半ばである。 ・最近の傾向として地元の支援学級を選ぶ児童が年々増えている児童の課題も多様になってきているので教職員の専門性も求められている。支援学校の地域支援において、さらに相談ができる機会が増えるということなので、ありがたいと感じている。 【第2回　11月21日】 ●教科書採択について ・現在、小学部に在籍しているが、高等部になると、教科書が増える。勉強が増えることを実感した。 ・様々なプリントやデジタル機器の活用等で、更に工夫されている。3学期の開催時に教科書も含め、各学部の学習や活動の様子もまとめて聞かせてもらえたら。 ●校内見学 ・授業の見学は、参考になった。中学部、高等部での実習は興味深かった。廊下の清掃では、できる人ができることをされているのが印象的だった。委員として関わっているが、実習受け入れについて、希望がいれば案内いただけたら。 ・高2の校内実習の様子を見たが、子どもたちだけで言葉を掛け合い、確認しながら丁寧にしていた。いつもあんな様子でしておられるのかと思った。中学部の縦割り授業、社会、体育、特活の縦割りは科目が固定なのか。行ったことのない校舎にも行くことができて、良かった。 ・個別最適な学びが大切だと言われている中、児童生徒一人ひとりが大事にされていると感じて感動した。卒業生に会い、いきいきとしている姿を見て、元気に頑張っている様子が見られて嬉しく思った。 ・小学部では、丁寧に学習をされている。掲示も愛情がこもっており、学校全体が美術館のような素敵な空間になっている。中学部の「ありがとうの木」は、一人ひとりの心とからだ揺れ動く難しい時期に、褒めて励ましてまた頑張ろうという気持ちを育てていると感じる。高等部の校内実習は、レポートリーが増えていてと感心した。清掃も丁寧。進路に向けて頑張っていることを感じた。50周年の節目の年。更に発展していくよう願っている。 【第3回　2月13日】 ●学校教育自己診断について ・進路や職業選択項目に、保護者と教職員で乖離。 小、中の保護者にとっては想像がしにくいので、評価が低いと捉えるのは厳しいのでは。すぐに進路選択が迫る高等部の保護者から8割超えの評価をもらっていることはよいのでは。 ・小学部の保護者として、進路に関してはわからない。回答しやすい文言に学部ごとに変えてはどうか。 いじめに対しても以前から【わからない】の回答が多い。子供に聞いてもわからない。 ・自分で訴えることが難しい児童・生徒もいる。答えやすい質問内容、文言にしてほしいという要望。 ・自己診断の項目については、小の保護者については、進路についてわからないことが多い。情報公開をしていくことで、進路について学習していることがわかりやすい。 ・グーグルの利用等、工夫されているところは評価できる。教職員回答率100パーセントは素晴らしい。 ・学校教育診断は、よりよくしていくためのツール。内容が分かりやすく答えやすくするのは良い。限界があるとは思うが、工夫は必要。 ●学校経営計画について ・ストレスチェックや超勤状況もあって、働き方改革については、いい取り組みだと思う。教育の質とのバランスを自分自身が見直していかないといけない。 ・中学部の取り組みで外部講師として行っていた。例年通りの見直しという観点から今後取り組みを継続するにあたって、見直していきたい。 ・体を動かす大切さはわかる。教室が不足している現状。どう確保しているのか。 ・ボランティアはどのような動きをしているのか ・PECSの活用があるが、卒業後の進路先で使用されずコミュニケーションが適切にとれず子どもが困ることも。 ・学校経営計画がおもしろく、見やすく分かりやすい。教職員が作成に携わっていることから、同僚性の高さをうかがえる。 ・高等部ではキャリア教育について力を入れているのがわかる。小学部という土台も含めて、子供たちの自己実現ができるよう、学部連携して励んでいただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	進捗状況
1 知的障がい教育の専門性向上	(1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する(自閉症 ^ハ ・ ^フ 外 ^ム の特性に応じた指導支援を含む) ア 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う ＜行動支援PT＞	(1) ア <u>コミュニケーションでみんな繋がろう!</u> ・コミュニケーション支援のワークショップで手法を学び、校内に広める。	(1) ア ・学んだ教員の報告会実施 年1回	・PECS ワークショップ開催(8月) 北摂杉の子会実践報告会(12月) 事業所見学会実施(R7年1月) PECS 実践報告会実施(3月) (○) ・全体研修で基礎的な内容、実践事例を研修内容として求める声が多く、夏季研修に反映した。(○) ・各学年で、定期的に活動内容の共有・改善の機会へとつなげる機運の高まりにつながった。(○)
	イ 自立活動を推進する ＜自立活動主任＞	イ <u>一人ひとりの良さを伸ばす自立活動!</u> ・全校・各学部で自立活動の研修・実践報告を実施する。	イ ・各学部研修のアンケート結果考察 ・夏季研修のアンケート結果考察	
	ウ 効果的な指導方法を検討する ＜高等部 首席＞	ウ <u>学ばせ方改革!授業力パワーアップ!</u> ・授業中の待ち時間を減らし、子ども一人ひとりの活動量を保障する。	ウ ・研究授業の研究協議で活動量が保障されていたかを協議する。 ・准校長の授業観察時に確認する。	・校内研究授業として、10 年目経験者研究授業を校内に周知、実施。研究協議を実施できなかったが、部研修として、高等部の教員全員で授業研究を行った。(○) ・研究授業や授業観察で活動量を意識している様子が窺えた(○)
	エ シラバスをブラッシュアップする ＜カリマネPT＞	エ <u>定期的に見なおしをかけよう!</u> ・教科ごとの繋がりを確認すると共に、系統立てた教科書採択を図る。	エ ・全校教科会の設定 年2回 ・システム運用状況の確認 年2回	・全校教科会5月、6月、9月の3回実施。教科書採択およびシラバスの内容見直しを図った。 ・教科書運用状況の確認(5月) ・シラバス運用状況の確認(6・9月) ・シラバス引継ぎ欄運用済(3学期)(○)
	(2) 卒業後を見据えた進路指導を充実させる ア コース制での学習の充実を図る ＜進路指導部 高等部＞	(2) ア <u>小さなスキルアップの積み重ね～卒業後を見据えて、一回り成長していく自分～</u> ・製品づくりを通してコースごとに必要な働く力を高めるとともに、販売を通して働く喜びや達成感の涵養、コミュニケーション力の体得を図る。	(2) ・学校教育の自己診断の保護者評価「進路や職業」80%以上[71%] ア ・校外の方々を招いた職業バザールウィーク 年1回	・保護者評価 85%(○) ・保護者、事業所の方々を招く形で企画し、2月3日から7日で実施。
	イ 卒業後の社会参加と自立を見据えた実習及び進路の充実を図る ＜進路指導部 高等部＞	イ <u>HOP STEP JOB!</u> <u>～ここから、始まる～</u> ・産業現場との連携や外部講師の招へいによる実践的、専門的な学習を保障し、主体的な進路決定に必要な知識の獲得を図る。 ・2年時にコースに応じた実習先での体験実習(2回)を継続実施し、生徒の自己理解や主体的な進路決定に繋げる。 ・1人1人のニーズに応じた進路選択をサポートするために進路先開拓を進めるとともに、福祉事業所・企業・障がい福祉課・ハローワークなど関係機関との連携を強化する。	イ ・職場見学・体験実習を1年生で年3回、2年生で年1回以上 ・外部講師による授業を年1回以上 ・2年時にコース別での実習先で体験実習を2回以上 ・高等部3年生、希望する進路の実現100%	・職場見学:1年2回、2年1回実施済。1年は2月下旬に1回実施。 ・外部講師による授業を9月に1回(ソニー生命)。12月に2回目(司法書士)、3回目(障がい年金)1月に4回目(キャリアガイダンス)を実施済(○) ・体験実習:2年2回実施済。キャリアアップコースのみ3回目(企業実習)を2月に実施予定。(○) ・27人中27人実現。100%。(福祉事業所21名中21名、企業6名中6名)(○)
	ウ 卒業後の社会参加と自立を見据えた効果的な進路指導を推進する ＜進路指導部 高等部＞	ウ <u>つながる進路～学部間・関係機関連携～</u> ・職業の授業、取り組みを通した学部間の児童生徒の交流を実施し、生徒の自信・意欲を高める。 ・小・中学部の保護者の方への情報提供の機会を増やし、先を見据えた進路決定に繋げる。 ・卒業後の生徒の動向を把握し、進路先でのより良い社会参加と自立に繋げる。	ウ ・小学部、中学部との職業交流を実施年1回 ・各学部への進路ガイダンスを実施。年1回 ・事業所のパンフレット配付、進路だよりの発行等で情報提供。進路のてびきへ小中学部の進路の動きを追記載	・50周年記念事業「学校きれい大作戦」にて、小中学部との交流清掃を小中学部各学年1回計9回実施。 ・高等部園芸での授業交流を小学部2年、高等部2年で1回実施。生徒の深い学びに繋がった。(○) ・小6、中3、高1・2対象に実施済み。(○) ・事業所パンフレットは「地域情報」の印を配付済み。進路だより各学期に発行。進路のてびきへの追記載し全校対象にして配布。事業所からの

府立寝屋川支援学校

2 保護者・地域・関係機関との連携	(1) 保護者との連携を深める ア キャリア教育プログラムの活用を推進する ＜教務・進路指導・支援部・高等部＞	(1) ア <u>輝く未来はキャリアプロから！</u> ・キャリア教育プログラムを保護者とのコミュニケーションツールとして活用。 ・キャリア教育プログラムと授業実践の連携を深める。	(1) ア ・懇談時にキャリア教育プログラムの課題と進捗を確認。年2回 ・キャリア教育プログラムを意識した授業設定を総合的な探究の時間に実施する。	・前期末懇談にてキャリア教育プログラムを保護者に提示、課題と進捗の確認を行った。後期末も同様実施 ・キャリア教育プログラムの観点に即して生徒が自身の成果と課題について自己評価できる教材「キャリアチェックシート」を作成し、総合の授業にて活用。前期は実施済みさらに前期末で評価、目標設定に活用済み。後期末も同様実施 ・1学期は5・6・7月に計3回実施、2学期は9・10月に2回実施、11・12月にも1回ずつ実施 3学期は1・2月に計2回実施 1回につき2～3件の相談あり 保護者、(児童)生徒本人、担任からの相談あり。(○) ・登下校便で1日2回(1便運行がある場合は3回)活用することができた。位置情報が反映されない場合はバスコースへ連絡して対応することができた。(○)
	イ 保護者が悩みを専門医に相談できる機会を作る ＜保健室＞	イ <u>相談室へいらっしゃい！</u> ・小児発達・精神科の専門医に保護者をはじめ、だれでも気軽に相談できる場を設定する。 ・できるだけ担任も同席し話を共有する。	イ ・学期2回以上の実施 ・1回につき2件以上の相談	
	ウ 通学バスの位置情報を提供する ＜生活指導部＞	ウ <u>安全安心の登下校！</u> <u>バス今どこ？バス今ここ！</u> ・バス会社と連携し、漏れのない位置情報を提供し、保護者のアプリ活用を促進させる。	ウ ・情報提供 バス運行日数×2回以上	・12月に、1年生は枚方なぎさ高等学校、2年生は西寝屋川高等学校、3年生は茨田高等学校と実施。(○) ・「食缶受け取り時の挨拶を行っている(小学部除く)」の回答は、1学期の31%から35.7%に上昇した。「下膳時に挨拶をしている」の回答は1学期の75.9%から83.9%に上昇した。「昨年度に比べて挨拶が増えたと感じる」の回答は69.6%と肯定的評価が目標に達した。(○)
	(2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する ア 学校間交流を推進する ＜高等部＞	(2) ア <u>こんにちは！寝屋川支援学校です</u> ・各学部において、学校間交流を行う。	(2) ア ・学校間交流実施 年1回以上	
	イ 民間委託された給食室との連携を図る ＜健康教育部＞	イ <u>おいしい給食ありがとう！</u> <u>伝えます！感謝の気持ち</u> ・食管受け取り・返却時に「いただきます」「ごちそうさま」等の挨拶を励行する。	イ ・年度末に教職員アンケートを実施「挨拶が増えた」肯定的評価67%	
3 働き方改革	(3) わかりやすい最新の情報発信を行う ア デジタル化を推進する ＜管理職・首席＞	(3) ア <u>ペーパーレス化で神(紙)ですか24！</u> ・メール配信システムやフォーム作成ツールの活用を進め、プリント配付やアンケート回収等についてデジタル化を推進する。	(3) ア ・全校配付プリントの配信率90% ・全校アンケートのデジタル化90%	・全校配布プリントの配信率90% 全校アンケートのデジタル化90% 学年配布プリントのデジタル化も進んでいる。(○)
	(1) 同僚性の高い職場づくりを行う ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる ＜管理職＞	(1) ア <u>1に健康 2に生活 34がなくて 5に仕事！</u> ・働き方改革を推進し、ワーク・ライフ・バランスを向上させる。	(1) ア ・ストレスチェックの総合健康リスクを昨年度より下回る〔107〕	・ストレスチェック総合健康リスク100で昨年度を下回った。(○)
	イ 定時退庁できる雰囲気づくりを行う ＜管理職＞	イ <u>あっ！定時や！か～えろっと！</u> ・会議日程や方法を検討すると共に、管理職も早く退勤し、退勤しやすい職場づくりを行う。	イ ・時間外勤務実績昨年度比3%削減	・昨年度比95.7%の時間外勤務4.3%削減(○)
	(2) 教員が働きやすい環境整備 ア 教材バンクの活用を推進する ＜教務部＞	(2) ア <u>児童生徒・教員・皆のニーズを満たす IC活用！</u> ・ストックされた教材は活用し、新たに制作した教材は、教材バンクへ。	(2) ・学校教育の自己診断の教職員評価 ア ・教材バンクに格納された情報教材数昨年度比120%	・R5／87 R6／107 前年比123%(○)
	イ 分掌長・主事等の業務を軽減する ＜学年主任＞	イ <u>分掌長さんそれやりますよ</u> ・業務の平準化のため、分掌長・主事等の学年業務の軽減を図る。	イ ・首席・分掌長等への面談時に確認	・分掌業務を考慮して、学年業務の内容を決定した学年もあるが、調整等が難しかった学年もあった。(△)
	ウ 物品・環境の管理・整理・清掃方法を見直す ＜教育環境部 健康教育部＞	ウ <u>無駄なく長いお付き合い！</u> ・備品、消耗品、教材の管理を行う。	ウ ・職員用ロッカー・靴箱、教材倉庫の整理整頓の実施 ・50周年の取組みに関連し、清掃用具を中心とした新機購入・管理	・教職員ロッカーと靴箱は随時、教材倉庫は学期末毎に整理整頓を行った。(○) ・各教室、特別教室の清掃道具を集約し、使用不可は廃棄した。また、清掃道具数を学部ごとに定め、管理をしやすいようにした。今後は廊下にモップ、ほうき、ちりとりを配置予定。また清掃用具について倉庫の整理等を行った。(○)
		<u>チェックでつなぐ安心安全！</u> ・校内安全点検を実施し、教育環境を整える。 <u>児童生徒・教員・環境にも優しいプール！</u> ・プール清掃・維持業務の負担を軽減するため洗浄促進剤を活用する。	・毎月の安全点検の実施と補修の依頼の実施 ・プール学習開始前に洗浄促進剤を投入	・毎月の安全点検と技能職員への補修の依頼を行った。(○) ・5月にマグクリーン SP をプールに投入した。その結果、プールに付着する苔が大幅に減少し、清掃が簡易になり、掃除の負担が減少した。(○)
	エ 個人情報処理業務を削減する ＜管理職＞	エ <u>溶解にして、他の仕事しよう改！</u> ・年度末個人情報処理を、シュレッダーから溶解に変更し、業務軽減を図る。	エ ・溶解処理の計画・実施	・1月末に全校周知し、個人情報関係書類を収集、その後の溶解処理に関して調整済み(○)

府立寝屋川支援学校

	オ 会議の円滑化・充実を図る ＜全校＞ (3) 業務推進体制を整理する ア 首席を学校経営の要として配置する ＜管理職＞ イ 校務分掌を整理する ＜管理職＞	オ <u>「こうあるべきだ！」はやめましょう！</u> <u>柔軟に問題解決！</u> ・提案を却下する場合、代替案を提示し、建設的で円滑な検討を行う。 <u>これ、なんのためにやってるの？</u> <u>「例年通り」はやめましょう！</u> ・行事等を検討する際、教育効果の向上を図ると共に働き方改革を進める。 (3) ア <u>強化します！首席間連携・教頭との連携</u> ・総括首席を指名すると共に、首席を教頭補佐として連携を更に強化する。 イ <u>分掌から飛び出すPT！</u> ・分掌とPTの担当をそれぞれ独立させ、業務の平準化・推進を促進する。	オ ・首席・分掌長等への面談時に確認 ・学校教育自己診断教職員評価 「行事の工夫・改善」80%以上〔76%〕 (3) ア ・総括首席を指名する ・首席を教頭補佐とする ・首席会を実施する ・PTの推進担当とする イ ・首席・分掌長等の面談時に確認	・面談時に「『反対のみ』の意見は少なくなってきたように感じるが、更なる浸透が必要」といった声があった（○） ・教職員評価 75.5%（△） ・評価指数はすべて達成。（○） ・「機動力高く動けているとは考えるが、推進するためにはもう少し人員の調整が必要」との声があった（○）
4 地域支援	(1) 地域との連携強化を図る ア 校内外の支援コーディネーターの育成 ＜支援部、LS＞ イ 高等学校への支援の実施 ＜支援部、LS＞	(1) ア <u>地域の学校と共に学ぼう「支援教育」！</u> ・各市町村と連携し、地域のコーディネーターの育成を図る。 ・年に5回以上LS以外の教員が巡回や研修講師に同行する。 イ <u>社会へ羽ばたく力を育もう！</u> ・支援教育サポート校と連携し、高等学校（含私学）等への相談支援を進める。	(1) ア ・すべての依頼について、各市の教育委員会と協同で実施 ・同行回数 年5回 イ ・高等学校（含私学）への相談支援・研修等を2回以上、実施	・大東市・寝屋川市各委員会と協同で実施。（○） ・同行者8名（首席含む）、計5回実施。（○） ・周知等行ったが、高、私学ともに依頼なし（△）